

20m02提出課題例

近代学校制度と授業の成立

教育方法論 m 第 2 回 テーマ「近代学校制度」 1 班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●日本に初めて近代的な学校制度が導入されたのは 1872 年の「学制」であり、学校の種類を大学、中学、小学の 3 段階に区別し学区制を採用した。西洋の教育方法からカリキュラムの編成や詳細な時間割が作成されたり、一斉教授を主体とし黒板などの教具が用いられたことにより近現代の学校教育制度となった。

ポイント 1) 1872 年以前の江戸時代などは寺子屋が普及していた。

2) 学制では単線型学校体系を構想した

3) 文部省は西洋からの応急的な教育方法の移入・普及をはかることで日本教育の近代化が進められた。

4) 小学校ができたことによって授業形態や教育に関する名称が大きく変わった。

(2) 「近代日本の学校制度における教育の危機に対する問題点」から

全体の要点●近代学校制度は政府主導の意識が強いことが特徴であり教育を取り巻く政治や経済、その他の状況から教育の内容や制度が選択されてきた。時代のながれからの教育問題の危機を乗り越える力をつけること、また危機に直面した際にどのように対応するのか自ら考え行動するといった力を身につけることが近代の学校教育には求められている。

ポイント 1) 近代学校は「国が中心となった」教育としてまとめられることが多い。

2) 小学校から高等学校に関しては、教師がどのような意図をもって何を教えるのか、そして教育のカリキュラム編成をいかに考えるのかということに焦点が置かれた。

3) 学制は学区に分け、大学校・中学校・小学校を設置することを計画し、身分や性別に関係なく国民皆学を目指した

4) 近代学校教育制度の原型は、16 世紀後半のヨーロッパを中心におこった公教育の原理などから普及した。

(3) 「近世・近代移行期における国民教育の確立と教育観の変化」から

全体の要点●近代学校で教壇に立つ教師は、一斉教授を行う方法を心得ている。近代学校で一般化した一斉教授法は、生徒の身体の制御と統制を必然とする方法である。そして、この近代学校を通じて形成される制御と統制に馴染んだ生徒の身体は、資本主義の特徴である労働力市場の近代化を標準化する有効なものとなっている。

ポイント 1) 一斉教授は教師の指示に対する生徒の一斉の行為を必要とする。

2) 教師は生徒の行為を制御し、統制することにより、はじめて一斉教授・学習法の遂行が可能である。

3) 現在の生徒がさせられていると感じないのは意識の上で自覚しないほどに至っているから。

(4) 自分の意見

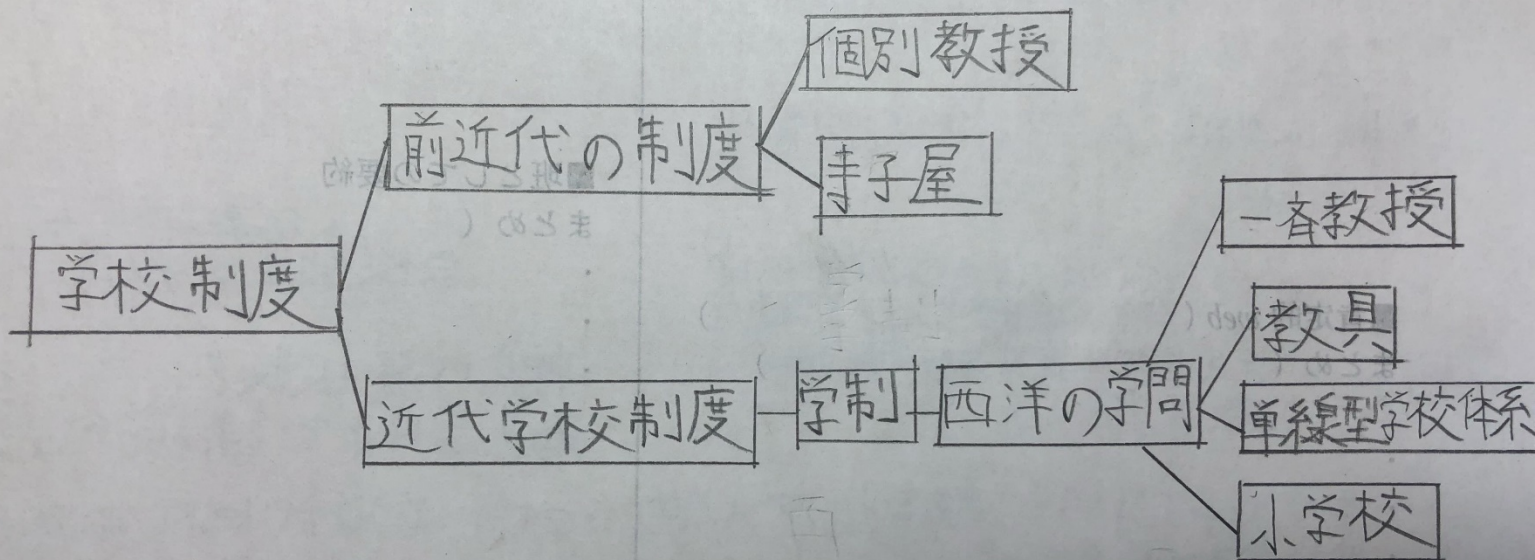
全体の要点●西洋からの教育方法により近代の学校制度が成り立っていて、これまでたくさんの変化がなされてきた。そのたびにたくさんの問題や批判的な見解がなされ今日まで議論がなされている。しかし近代学校の制度によりよりよい教育が受けられていることは確かである。

- ポイント 1) 学制により近代学校制度が成り立った。
2) 近代学校制度は西洋の影響が大きい。
3) 学習指導要領など国による教育がなされている。
4) 様々な教育の考え方から試行錯誤がなされてきた。

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 「近代日本の学校制度における教育の危機に対する問題点」 田中 真秀
<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/ebr/Ronso-423tanaka.pdf>
(2) 「近世・近代移行期における国民教育の確立と教育観の変化」 梶井 一暁
http://ousar.lib.okayama-u.ac.jp/files/public/5/54692/20161207163259473855/bgeou_163_009_019.pdf

教法 m 第2回 概念系統図



授業の定型化

教育方法論 m 第2回

テーマ「授業の定型化」 班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

1890年ごろから「教育ニ関スル勅語」の配布により、国民の精神と道徳の統一という教育の基本理念と実践目的が示され、1904年には「国定教科書制度」が敷かれ、学校は国民共通の文化と道徳を徹底するための装置と位置づけられた。そして、1891年学級の意義が公式に定義されたことにより「等級制」ではなく「学級制」になり、1900年には「学年制」の学級編成で全国の子どもが同じ内容を同じ方法で学習になった。

ポイント1)「教育ニ関スル勅語」の配布により国民の精神と道徳の統一

2)「国定教科書制度」により学校は国民共通の文化と道徳を徹底するための装置と位置づけ

3)「等級制」ではなく「学級制」へ

4)「学年制」の学級編成で全国の子どもが同じ内容を同じ方法で学習

(2) ネット資料

全体の要点●アクティブ・ラーニングを実装したことにより、最近では学習指導要領の基準の改訂が多くなっており、「主体的・対話的で深い学び」が現代では必要になっている。

ポイント1)「アクティブ・ラーニング」の導入

2)「主体的・対話的で深い学び」を具現化

3)定型化されたプロセスを踏んでも自発的に挑み続け、立ち向かう生き生きとした学びになることは想像しにくい

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●近年の時代の変化によって系統学習よりも問題解決学習が重要視されてきており、生徒たちの自主性を大事にする授業が求められている。ただし、教員の負担などの問題もある。

ポイント1)チョーク&トーク型の授業

2)知識を身に付けることを超えて、身に付けた知識を応用しながら、自らの知を更新していくこと。

3)問題解決学習と系統学習の間で方針が揺れ動いた。

4)教員の多忙さで両立できるのかななどの批判

(4) 自分の意見

全体の要点●近年の環境の変化についていけるようにするには、今まで続けていたものをずっとするのではなく、教え方も変化させていくべきだと思う。ただ、それにより教員の負担がでかくなり授業がひどくなってしまったら意味がないと思う。

ポイント1)近年の環境の変化

2)新しいものの取入れ

3)教員の負担

(5) 出典(文献名、url等)

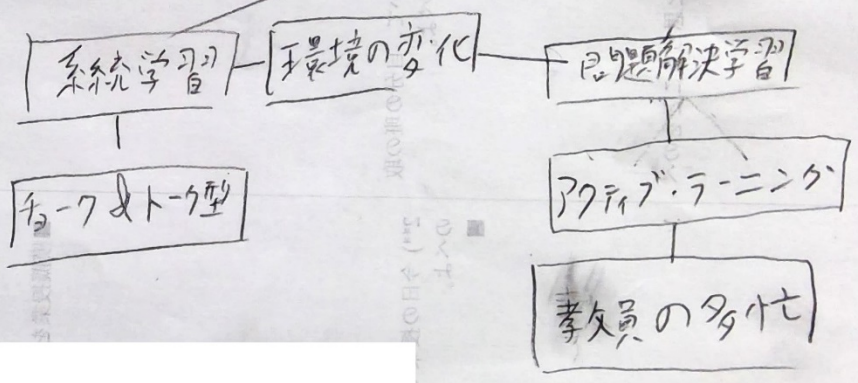
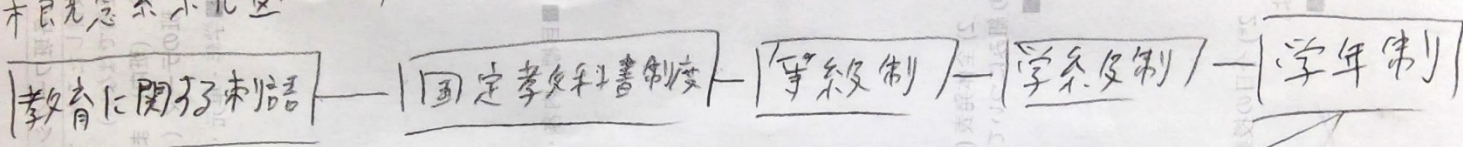
(1)「第1人者に聞く「中学校におけるアクティブ・ラーニング」の心得とは？」

<https://kyoiku.sho.jp/58519/>

(2)「[ようやくその①] アクティブ・ラーニングとは何か 渡部淳」

<https://note.com/symt4a/n/n11363368eb08>

本頁无急系系表四 テーマ(授業の定式化)



授業改造の試み

教育方法論 m 第 2 回

テーマ「授業改造の試み」 5 班

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

第一次世界大戦後の日本は、経済発展とともに、教育政策は天皇制が中心となり、国家主義体制確率のための学校教育の基礎ができていたが、第二次世界大戦からは国家のための教育から「権利としての教育」に理念を変更し、新しいカリキュラムと教育方法の開発が活発になった。

- ポイント 1) 第一次世界大戦後の日本では教育勅語の発布と教科書の国定化が国家主義教育の二大柱であり、「臣民教育」の徹底課題であった。
- 2) 大正期の「新教育」は、従来の画一主義、注入主義、暗記主義的な教育方法の批判と、子どもの個性、自発性の尊重を主張した。
- 3) 「新教育」では教師は「教授の機械」として働くことが求められた。
- 4) 第二次世界大戦後の教育方法改革の特色は、戦前の教育体制への批判、文部省の主導によりアメリカの教育が翻訳・模倣で広まったこと、問題解決学習の登場の三つであった。

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●

- ポイント 1) 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- 2) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点
- 3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。
- 4) 討論や対話といった学習活動を行ったりすることのみが主体的・対話的で深い学びではない点に留意が必要。

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

- ポイント 1) 戦前の教育体制では、国民の生活・教育・物資や交通など全てを日本政府が支配統制し、国民は総動員体制で戦争勝利という 1 つの目的に向けて突き動かされていたということ
- 2) 国家にとって必要な人材を徴収するという本来の教育制度の目的がむき出しにされた状態を垣間見る事ができたのではないのでしょうか。
- 3) 個人の立身出世というのは殆ど置き去りにされて、国家の存続の為に国民形成こそが唯一の目標であった。
- 4)

(4) 自分の意見

全体の要点●

① 戦前は、教育が国家の利益のために利用されていた。戦後は、教育が個人の成長のために利用されている。

ポイント 1)戦前の教育体制は自由では子どもたちの個性を育むものではなく国をまとめるための教育であったが、日本全体は教育内容で言えば一貫性を持っていた。

2)戦後の教育は、子どもたちの個性などを育むことが可能である。

3)戦後戦前にかかわらず。様々な資質・能力を獲得することは重要である。

4)

(5) 出典(文献名、url 等)

(1) 文部科学省(2017).「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

(2) 文部科学省(2018).「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.

(3)「戦時下の教育」

<https://datsugakkou.com/category1/entry56.html>

ICT活用例

ICT 活用例

1 班

1. 単 元

小学五年生、算数

2. テーマ

四角形と三角形の面積

3. ICT 活用のねらい

- ・ 三角形と平行四辺形において底辺と高さが同じならば、面積の関係は 1 : 2 の関係になることを視覚的にわかりやすくする。
- ・ 図形の頂点を動かしながら、図形同士を比べやすくし生徒が思ったことを、即座に実行できるようにする。

4. ICT 活用例

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点
ICT 活用の場面	ICT 活用の手順 ○導入 ・ 三角形の底辺と高さを確認し、「底辺×高さ÷2」で面積を求められることを確認する。 ・ 頂点が底辺の延長線上にある三角形の面積も「底辺×高さ÷2」で求められることを確認する。 ○展開 ・ 平行四辺形の面積を求めてみる。 ・ 同じ三角形を二つ用意し、その二つを合体させ視覚的に倍になることをわかりやすく表す。 ・ 三角形の面積は直角三角形の組み合わせだということを確認させる。 ・ 直角三角形の面積を求める際、長方形の半分だと考えて、「縦×横÷2」で出す。 ○まとめ ・ 三角形は底辺と高さで求めることができるということを確認する。 ・ 三角形と平行四辺形は、比較的密接な関係であることを確認する。	○電子黒板などを使用するが、そっちはかりに気をとられず、自分で図形をノートに書く。 ○電子ペンで生徒たちも書き込んでもらったりして記憶に残るようにする。 ○分からないときのためにあらかじめヒントなどを用意しておく。
備考 使用教科書 …… 学校で使用されている教科書、指導用のデジタル教材 準備物 …… 電子黒板、電子ペン 授業形態と工夫 …… 黒板とは異なるため、すぐに修正や追加できることを利点として活用する。		

5. 出典・参考等

- ・ <http://eduiet.java.or.jp/pdf/h24/22.pdf> 「小学 5 年 算数」

・

教育方法論

< 概念系統図 > (JcT 活用例)

三角形や平行四辺形の形を見て
どうすれば面積が求められるか考える。

三角形の面積を考える

平行四辺形が三角形2つから
できていることを理解する。

底辺の延長上にできる三角形にも
「底辺 $\times$ 高さ $\div 2$ 」がつかえることを
確認する。

「底辺 $\times$ 高さ」で平行四辺形が
求められることが理解できたら
練習問題にとりくむ。

いろんな三角形からできる平行四辺形を
考えて、その面積を求める。

三角形と平行四辺形の関係が
比較的密接であることを確認する

確認問題01

教育方法論 m

第 1 回

確認問題 01

(1) 現実の学校は何によって設立されたか。

近代国家 (18世紀後半～19世紀前半)

(2) 次の空欄を埋めよ。

学力と集団と発達の保障とは、

学力の「格差」や「病める学力」に

取り組む中で、本物の学力を全ての子供たちに
身につけさせること。

暴力や「いじめ」、不登校に現れる

子どもたちの「いじめ」をめぐる問題状況に

直面して、豊かな集団による「教育」

や自治能力の形成をめざすこと。

「障害児教育」から提起された発達保障に
取り組むこと。

(3) 「授業研究」には、どんな課題が凝縮されて
取組まれてゆくべきか。3つ述べよ。

- ・「学力と集団 (自治) と発達の保障」
- ・「教育と生活の統合」
- ・「教育と科学の統合」

(4) 教育方法の学に流れるエスプリを構成する3つ
の要素をあげ、そのうち1つについて簡潔に説明
せよ。

- ・リアリズム
 - ・ヒューマニズム
 - ・ロマンチズム
- ・リアリズム

教育実践の現場で

子供、教師、保護者、地域の人々と
交わり、教育を考える

ヒューマニズムとは、差別や分断に対する向かい、
弱者目線からの教育実践のあり方から教育的
価値の源泉を見出そうとした。

また授業でつまづくことな生徒、教師の両者から
忌み嫌うという考えから、つまづくに向き合い、新教材
構想を見出し、豊かにしていくという「つまづきと
格闘する授業」という思想であること。

ロマンチズム・・・教育問題の現実には立脚して、さ
らにはその現実を突き抜けようとする意欲と展望
をもつこと。

**）確認問題 01 を自己評価し、

気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5段階自己評価 (3)

■

学校というものは、人間の歴史の長さを考えると
「教育」の歴史に由来したものであるが、
あまたの考え方があろうのに対して、「教育」
という言葉の難しさ、大切さが伝わった。

